

伊勢志摩サミット三重県民会議第4回事業推進部会

事項書

日時：平成27年11月20日（金）

11:30～12:00

場所：勤労者福祉会館6階講堂

1. 開会

2. 議題

（1）開催支援 事業

- ①宿泊予約センターについて
- ②弁当供給体制の整備について
- ③外国語案内ボランティアについて
- ④外務省飯倉公館でのセミナー及びレセプションの開催について

（2）おもてなし 事業

- ①第2回伊勢志摩サミットフォーラムの開催について
- ②カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開について

（3）明日へつなぐ 事業

- ①ジュニアサミットについて
- ②多様な主体における国際理解・国際交流事業について

（4）三重の発信 事業

- ①公式ポスターの展開について
- ②プレス等を活用した情報発信の展開について
- ③三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について
- ④三重県情報館（仮称）について

（5）その他

3. 閉会

配布資料

- 【資料1】 宿泊予約センターについて
- 【資料2】 配偶者プログラムについて
- 【資料3】 ジュニアサミットについて
- 【資料4】 シンボルマークの作成について
- 【資料5】 第2回伊勢志摩サミットフォーラムの開催について
- 【資料6】 県産食材等の利用促進に向けた取組について
- 【資料7】 弁当供給体制の整備について
- 【資料8-1】 クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について
- 【資料8-2】 花いっぱいおもてなし運動について
- 【資料9】 ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について
- 【資料10】 公式ポスターの展開について
- 【資料11】 カウントダウンボード・ノベルティを活用したPR展開について
- 【資料12】 プレス等を活用した情報発信の展開について
- 【資料13】 三重県情報館（仮称）について
- 【資料14】 三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について
- 【資料15】 多様な主体における国際理解・国際交流事業について
- 【資料16-1】 インフォメーション機能の整備について
- 【資料16-2】 外国語案内ボランティアについて
- 【資料17】 外務省飯倉公館でのセミナー及びレセプションの開催について

平成27年11月20日
開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者、報道関係者等

(3) センター概要

- ①開設日 平成27年8月24日（月）
- ②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム
※株式会社JTB中部（代表）、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の3社による共同事業体
- ③住 所 三重県津市羽所町375 百五・明治安田ビル5階
- ④電話番号 059-228-8450
- ④営業時間 平日9時30分から17時30分まで（土日祝は休業）

3 事業実施スケジュール

- ・ 8月31日～9月7日 宿泊施設向け説明会の開催
(伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市で計10回)
- ・ 9月～ 必要な客室数の確保
- ・ 10月～ センター新事務所開設、宿泊希望者からの問合せ対応・調整
- ・ 11月～ 確保済み客室の内、使用見込みのない客室の返還（随時）
- ・ 12月～ Web上での予約受付システムの立ち上げ
- ・ 1月 宿泊施設に対する配宿計画案の提示
- ・ 2～4月 宿泊施設向け外国人おもてなしセミナーの開催

平成27年11月20日

開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5月26日午後、27日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ：「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード：「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体的に検討し実施する。

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

ジュニアサミットについて

1 目的

ジュニアサミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 これまでの経緯

8 月 5 日 鈴木知事から中山泰秀外務副大臣に本県開催を強く要望

9 月 17 日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、開催日程（案）や討議テーマ及び討議に資する視察先を提案

10 月 27 日 外務省飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション」にて、岸田文雄外務大臣がジュニアサミットの三重県開催を発表

【開催時期】 平成 28 年 4 月 22 日から

【開催場所】 三重県桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催

11 月 17 日 「2016 年ジュニア・サミット in 三重」日本代表参加者募集開始

3 事業の概要

(1) 開催内容について

平成 27 年 11 月 11 日、外務省からジュニアサミットの参加募集要領が示され、下記の内容で開催されることとなりました。

・名称：「2016 年ジュニア・サミット in 三重」

・開催期間（予定）：平成 28 年 4 月 22 日から 28 日まで

（4 月 21 日会場入り、4 月 29 日東京出発）

・主催：日本国外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議

・会議（討議）テーマ（案）：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」

・参加者：G7 各国の原則として 15 歳～18 歳の 4 名のチーム（男性 2 名、女性 2 名）及び付添人 1 名

・使用言語：英語

・プログラム（暫定）

4 月 21 日（木）桑名市到着

4 月 22 日（金）開会式、会議

4 月 23 日（土）会議、視察

4 月 24 日（日）交流行事

4 月 25 日（月）会議

4 月 26 日（火）会議、閉会式、東京に移動

4 月 27 日（水）政府首脳に成果文書提出（27 日又は 28 日）、都内視察

4 月 28 日（木）同上

4 月 29 日（金）東京出発

(2) 日本代表チームの選考について

日本代表チームについて、三重県内から4名（男性2名、女性2名）及び付添人1名を平成28年2月29日までに選考するよう外務省から通知があり、三重県教育委員会及び環境生活部私学課に選考を依頼し、次のとおり募集を開始しました。

【応募資格】

- (1) 日本国籍を有していること。
- (2) 原則として平成28年4月22日現在で15歳～18歳であること。
- (3) 三重県内に在住している者、または三重県内に通勤・通学等をしている者
- (4) 国際交流や国際問題について関心があること。
- (5) 心身ともに健康であること。
- (6) 次の検定試験のいずれかの基準に相当する英語力を有し、意思疎通能力が充分にあるもの
 - ア 英検 準1級以上
 - イ TOEFLiBT 72点以上
 - ウ IELTS 5.5以上
 - エ TOEIC 785点以上
- (7) 選考会、「2016年ジュニア・サミットin三重」の全日程及び事前研修（平成28年1月から平成28年4月までの期間で、のべ7回程度、土日祝日に実施を予定）に出席可能な者
- (8) 参加について親権者の同意が得られること

【募集期間】

平成27年11月17日（火）～12月7日（月）17時まで

【選考方法】

選考会を開催し、書類審査、面接審査及び口述審査を行い、すべての審査から総合的に判断して選考します。

【選考会実施日】

平成27年12月19日（土）

4 今後の取組方針

- (1) 日本代表チームについて、県内の高校生等から選出し、開催に向けて事前研修を行います。
- (2) 三重県ならではの歓迎・交流行事や、県内高校生等との交流を含む県内各地分散型の体験・交流の具体的なプランについて、改めて国に提案を行います。（現在、県内各市町に対し、国に提案するためのコンテンツを照会中。）
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等が参加者と交流できる機会を可能な限り設けられるよう、外務省と協議します。
- (4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、北勢地域の市町や県内の関係者と緊密な連携を図っていきます。

平成 27 年 11 月 20 日
事業推進課

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマークの決定は平成 28 年 1 月以降と見込まれています。

国の決定に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催機運の醸成を図ります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信しました。

① 近藤敦也氏に作成を依頼（平成 27 年 8 月 21 日）

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票（平成 27 年 9 月 25 日～10 月 1 日）

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただくシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けました。

※ 投票総数 3, 577 票

③ シンボルマークの県民会議会長、副会長、理事による投票

（平成 27 年 10 月 2 日～10 月 5 日）

県民投票の結果、上位 2 案に対して県民会議会長、副会長、理事による最終投票を実施しました。

④ シンボルマークの決定（平成 27 年 10 月 13 日）

3 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

県内外の企業・団体・個人による応援事業や企業・団体からの協賛の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

第 2 回伊勢志摩サミットフォーラムの開催について

- 1 日時 平成 28 年 1 月 16 日（土）13 時 00 分～15 時 45 分（開場 12 時 00 分）
- 2 場所 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂 （鈴鹿市南玉垣町 3500-3）
- 3 内容
 - (1) 挨拶 鈴木伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事）、末松鈴鹿市長
 - (2) 講演 「伊勢志摩サミットのレガシーを生み出す”おもてなし” 戦略とは」
講師 中村好明 氏 （ドンキホーテグループ 株式会社 J I S 代表取締役社長）
 - (3) トークセッション
「おもてなし、食を中心とした情報発信、サミットのレガシー（遺産）について」
スピーカー
山田文比古 氏（東京外国語大学教授、元沖縄県サミット推進事務局長）
清水慎一郎 氏（清水清三郎商店株式会社代表取締役）
ラース・ニコライゼン 氏（ドイツ通信社東京支局長）
中村好明 氏（ドン・キホーテグループ株式会社 J I S 代表取締役社長）
未定（外務省）
コーディネーター
鈴木英敬伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事）
- 4 定員 600 名（事前申込制・申込超過の場合は抽選あり）
- 5 今後に向けて
第 3 回伊勢志摩サミットフォーラムは、平成 28 年 3 月または 4 月を目途に、開催を予定しています。

平成27年11月20日

開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等のPRを行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 取組状況

以下のとおりリストをとりまとめ、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、積極的に県産食材等を活用されるよう要望を行った。

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成。
- ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募を行い、みえセレクション選定品を含め、審査会を経てリストを作成。
- ・日本酒：関係機関と調整のうえ、全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が奨める日本酒をとりまとめリストを作成。

4 今後の進め方

引き続き、国に対し県産食材等の活用を働きかけるとともに、関係ホテル等に対しても積極的に提案していく。

平成27年11月20日
開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的とする。

2 取組内容

(1) 業務内容

弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

(3) 整備する供給体制

- ①屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要（以下、大規模需要）への対応
- ②屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要（以下、小規模需要）への対応

3 大規模需要への対応について

(1) 弁当供給に係る想定

弁当の供給について、現時点での「発注数の推移」「配送先への弁当到着時間」「配送先」の想定は、別添のとおりであり、この想定を満たす体制を整備できるよう、企画提案コンペを実施し、業務実施事業者を選定する。

(2) 事業者選定に係る最重要方針

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査を求めることとする。

(3) 検査指導体制

万全の食品衛生管理体制を確保するため、県内の弁当製造施設については、月2回程度の監視指導を実施することとする。

(4) 県内事業者の参画

事業者選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を一社以上含めることを参加資格にするとともに、配送事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとすることで、県内事業者の参画を確保する。

ただし、弁当製造施設数については、十分な検査指導体制を確保できることが前提となる。

【地区割りについて】

弁当の配送場所を、比較的規模の大きな「志摩市」及び規模の小さな「津市・伊勢市・鳥羽市」の2地区に分けて、企画提案コンペを実施することにより、十分な検査指導体制を確保しつつ、県内事業者の活用をより促進する。

(5) 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう企画提案コンペの仕様書に規定する。

また、フードイノベーション課と連携して県民会議の方から食材及びメニューの提案を行うことで、企画提案の内容に止めることなく、県産食材の活用促進に努める。

(6) 企画提案コンペの審査基準

① 業務遂行能力に関する事項

弁当の受注処理体制、製造能力、各地域への配送体制及び県内事業者の参画状況、危機事案発生時の対応などから判断する。

② 衛生管理に関する事項

食中毒及び異物混入防止に向けた食品衛生対策などから判断する。

③ 食材及びメニューに関する事項

県産食材の活用及びバリエーションに富んだメニュー作りなどから判断する。

④ 環境への配慮に関する事項

ゴミの減量化やCO2の削減に向けた取組などから判断する。

(7) 今後のスケジュール

平成27年10月30日	企画提案コンペ	公募開始
11月30日	企画提案コンペ	公募締切
12月10日	プレゼンテーション・ヒアリング審査	
	最優秀提案決定	
	食品衛生状況確認、業務内容協議・確定	
平成28年 1月	協定書締結	
	弁当受注窓口設置	

4 小規模需要への対応について

食事を提供できない宿泊施設、国際メディアセンター内の支援事業者、海上保安庁職員の一部など、屋内保管が可能で、比較的小規模な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、両者のマッチングを促進する。

伊勢志摩サミット弁当供給業務（大規模需要）に係る想定

1 発注数の推移

期間	1日1食の弁当見込数			備考
	朝	昼	夕	
3/24～4/21	300個	900個	300個	
4/22～5/9	2,200個	6,600個	2,200個	
5/10～5/18	3,300個	10,000個	3,300個	
5/19～5/28	5,000個	16,000個	5,000個	

2 配送先への弁当到着時間

朝	午前4時から午前5時
昼	午前9時から午前10時
夜	午後3時から午後4時

3 配送先

市名	箇所数	場所
志摩市	数か所	(未定)
伊勢市	1～数か所	(未定)
鳥羽市	1～数か所	(未定)
津市等	1～数か所	(未定)

<参考>

企画提案コンペでは、「5月26日（木）の配送場所別配送弁当数」を下記のように条件として設定し、企画提案をしていただきます。

【A地区】

市名	配送場所	朝食	昼食	夜食
志摩市	志摩市役所本庁舎	1,000個	4,000個	1,000個
	志摩市役所磯部支所	1,000個	3,000個	1,000個
	志摩市役所浜島支所	1,000個	3,000個	1,000個
	志摩市役所大王支所	1,000個	3,000個	1,000個
合 計		4,000個	13,000個	4,000個

【B地区】

配送地区	配送場所	朝食	昼食	夜食
伊勢市	伊勢市役所	400個	1,000個	400個
鳥羽市	鳥羽市役所	300個	1,000個	300個
津市等	津市役所	300個	1,000個	300個
合 計		1,000個	3,000個	1,000個

注意：あくまでも企画提案をするための仮定の配送場所・配送弁当数です。

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について**1 目的**

サミット開催にあたっては、各国関係者はもとより、多くの報道関係者等が訪れると予想されます。これらの来訪者により快適な滞在環境を提供し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わり、機運醸成や参加意識の向上をめざします。

2 事業の概要

県民会議や県、市町及び各団体・企業等の多様な取組を生かしながら、県民が一体となって、開催地周辺のみならず、全県的にクリーンアップ活動を、協賛、応援事業の枠組も活用して展開します。

3 取組方針

- (1) 市町や自治会、関係団体・企業の実施しているクリーンアップ活動等を生かし、全県的な取組として展開します。
- (2) 県民参加の機運醸成のため、キックオフイベント等を実施することで一体感と発信力を高めていきます。

4 今後の進め方**(1) 関係者の協力体制**

県民会議の体制や市町へ市町連絡調整会議等を活用し、自治会等の各種地域団体も含めた協力体制を構築していきます。

(2) 協賛、応援事業の活用

協賛、応援事業の枠組を活用し、クリーンアップ活動や物品等の提供により、企業・団体の協力を集結していきます。

例：企業や団体によるクリーンアップ運動の協賛、応援事業の登録
各種スポーツ大会や地域のイベント・祭等での 10 分間クリーンアップの呼び掛け
クリーンアップ活動への物品等の協賛 等

(3) キックオフイベントの展開

市町や関係団体等、一人でも多くの県民がクリーンアップ活動を行う日をキックオフイベント設定し、機運の醸成や一体感の構築を図っていきます。

なお、記念品等には協賛・応援事業や寄附金等も活用し、県民の力をあわせた活動となるよう取り組んでいきます。

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

花いっぱいおもてなし運動について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するため、「花いっぱいおもてなし運動」の取組を実施します。

2 事業概要

「花いっぱいおもてなし運動」は、三重県を訪れる方々を花でおもてなしをする取組であり、サミット開催地の伊勢志摩地域を中心に、全県的に展開します。また、この機会を利用して、三重県産の花き花木をPRし、魅力を発信します。

3 取組方針

- (1) 一人でも多くの県民の方々に参加していただけるよう、市町や関係団体等と協力しながら、全県的な取組として展開します。
- (2) サミット本番前にキックオフセレモニーを開催し、サミットの成功と歓迎機運の醸成及び県民参加意識の向上を図ります。
- (3) 三重県産の花き花木を積極的に使用し、広く産地の情報を発信します。

4 今後の進め方

(1) 関係機関との協議

事業の実施にあたっては、警備実施上の支障とならないよう、警察などの関係機関と十分に協議を行います。

(2) 全県的な取組

①市町村庁舎における飾花

各市町の庁舎内に花き花木を飾り、庁舎を訪れる地元住民の方々にサミット開催が近づいていることを実感していただきます。

②各市町でのプランター設置

各市町に花、プランター、培養土等の必要資材を配布し、各自治体内に設置します。
※各市町独自で実施されている花いっぱい運動と連携して事業展開を行います。

(3) 協賛事業・応援事業の活用

企業や団体に事業への登録を行っていただき、物品提供や花の飾り付け等でご協力いただきます。

例) サミット開催の影響で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾り付け
→ 宿泊施設、商業施設、電車駅構内、高速道路SA・PA、フェリー乗場等

(4) キックオフイベントの開催

サミット本番前に、県内一斉に花の飾り付けを行うキックオフイベントを開催し、歓迎機運や参加意識の向上を図ります。また、物品や記念品等は協賛事業・応援事業、寄付金等を活用し、より多くの県民に参加していただけるよう取り組んでいきます。

三重県の花きカレンダー

○:出荷/鑑賞時期 ●:鑑賞時期

鉢花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シクラメン	●	●	●								○	○
ハイドラング				○	○	●	●				○	○
セントポーリア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポインセチア	●									○	●	●
サイネリア	●	●	●	●								○
プリムラ・ポリアンサ	●	●	●	●							○	○
プリムラ・マラコイデス	●	●	●	●								○
プリムラ・ジュリアン	●	●	●	●								○
ショクナゲ	○	○	●	●	●				○	○	○	○
ニューギニア				○	○	●	●	●	●	●	●	
インパチェンス				○	●	●	●					
カンパニュラ				○	●	●	●					
ヘリクリサム		○	●	●								
クロサン德拉					○	●	●	●	●	●	●	
サルズベリ									○	●	●	
フーゲンビリア						○	○	●	●	●	●	
ミニバラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ペラルゴニウム				○	●	●						

洋らん

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シンビジウム	●	●	●	●							○	○
コショウラン	●	●	●	●						○	○	○
デンドロビウム			○	○	●	●						
アングロカステ		○	○	○	○	○	○					
パフィオペディラム	●	●	●								○	○

観葉植物

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ヘデラ						周	年					
ボトス						周	年					
アンズリウム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
スパティフィラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
グズマニア						周	年					
ディジタリス						周	年					
パーセノシッサス						周	年					
フミラ						周	年					
オフイオボゴン						周	年					
モンステラ						周	年					
カラジウム				○	○	●	●	●				
ソレイロリア						周	年					
ツチナンダ						周	年					
トラデスカンティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ディフェンバキア	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シェフレラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドラセナ類	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エクメア				○	○	○	○	○	○	○	○	○
フィロデンドロン	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エアプランツ						周	年					

花苗

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ガーデンシクラメン	●	●	●	●	●					○	○	○
パンジー	○	○	○	○	○	●	●			○	○	○
ビオラ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
ハナショウブ					○	●	●					
ぜうニウム	○	○	○	○	●	●	●	●	●			○
ハボタン	●	●	●									
エボルブルス					○	●	●	●	●	●	●	
ニチシソウ				○	○	○	○	○	○	○	○	○
キンギョソウ	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サルビア				○	○	○	○	○	○	○	○	○
マリーゴールド			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポーチュカ					○	○	○	○	○	○	○	○
ペチュニア			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バーベナ				○	○	○	○	○	○	○	○	○
ペゴニア					○	○	○	○	○	○	○	○
トレニア				○	○	○	○	○	○	○	○	○
コリウス						○	○	○	○	○	○	○

切り花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
バラ						周	年					
キク						周	年					
トルコギキョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ガーベラ						周	年					
ストック	○	○	○	○	○						○	○
スイートピー	○	○	○	○	○						○	○
カーネーション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グラジオラス						○	○	○	○	○	○	○

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用している SNS（Facebook ページ及び Twitter）についても、HP の運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化を図ります。

2 事業の概要

HP や SNS を活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HP のリニューアル及び HP ・ SNS の維持管理運営については、バナー広告等で賄うことを前提に、受託事業者は業務に係る経費をすべて負担することを条件に、当該 HP における広告収入を経費に充当できる仕組みとしていきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該 HP は日・英の 2 カ国語対応を基本とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・連携・寄附事業の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信

※コンテンツにあわせ、一部は多言語化を予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

企画提案コンペを実施し、年内をめどにリニューアルする予定です。

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターの展開について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットをPRするための第1弾ポスター、県民会議のシンボルマーク決定を告知する第2弾ポスターを制作したが、今後第3弾から第5弾までのポスターを作成することで、サミット開催への期待感と「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

第1弾 「起」：サミットが伊勢志摩で開催されることをPRし、期待感を醸成

第2弾 「承」：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

★第3・4弾 「転」：ポスターの公募

第5弾 「結」：「明日へつなぐ」をテーマに、県民のこれまでの活動を振り返りサミット終了が新たなスタートと訴求

3 第3弾ポスターの公募

- ・第3弾ポスターは、より高品質なポスターとするため公募形式とする。
- ・ポスターのテーマを「サミット開催に向けてのおもてなしの心」とする。
「おもてなし」や「歓迎」といった伝わりにくいテーマを人々に訴えかけるポスターとして表現することで、県民の意識啓発を目指す。
- ・ポスターの印刷や配布については、企業等の協賛を募集する。
- ・なお、第4弾のポスターについても公募を想定。

①期 間 平成 27 年 10 月 14 日（水）から 11 月 13 日（金）（募集終了）

②応募件数 22 件

③選考委員 5 名

（座長）	水谷孝次 氏	水谷事務所／MERRY PROJECT 代表・アートディレクター
	田端英明 氏	公益社団法人 三重県観光連盟専務理事
	江崎貴久 氏	海島遊民くらぶ代表
	三田絢子 氏	有限会社伊勢福・広報担当
	森本佳菜 氏	三重大学大学院工学研究科建築学専攻博士 前期課程在学中

④選考基準

デザイン性、テーマの表現性、誘客性を選考基準とする

4 第3弾ポスタースケジュール

- 10月13日(火) 県民会議総会にて発表
- 14日(水) 募集開始
- 11月13日(金) 募集終了
- 11月19日(木) 第一次審査(～24日までに各委員が推薦作品を報告)
- 11月26日(木) 第二次審査(4作品を選定)
- 11月27日(金) 著作権等の確認
- 12月14日(月) 第三次審査(選考委員による最優秀賞の決定、会長の承認)
- 12月18日(金) 最優秀賞者表彰及び知事記者発表
(第三次審査にて採用とならなかった作品についても
優秀作品として表彰)
- 12月下旬 第3弾ポスターの配布(開催150日前ウィークを想定)

5 ポスターの活用・展開事項

県民会議関係者、市町、県、県出先機関、希望者(企業・団体・個人)
郵便局、金融機関、商業施設、公共交通機関関係、各種イベントブース等での
掲示を想定

平成 27 年 11 月 20 日
事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開

1 目的

伊勢志摩サミットに向けて、応援事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、歓迎機運の盛り上げを図る。また、伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、シンボルマークを活用した各種PRツールを作成し、節目ウィークイベントや様々な会議等において、積極的に活用する。

2 取組内容

(1) カウントダウンボードの設置

広報全体計画に基づき、200日前ウィーク周辺で、広く県民の皆さまに伊勢志摩サミットを知っていただくため、県内を中心にカウントダウンボードを一斉設置。

(2) 各種PRツールの作成

手提袋、クリアファイル等の汎用品ツールを作成。今後は子どもなどターゲットを明確にしたノベルティも作成して様々な場面に応じて配布できる各種PRツールを作成する。

3 今後の展開

(1) カウントダウンボードの展開

広報全体計画に基づき、県外への展開については、全国的な話題性の向上と興味喚起のため開催150日ウィークに併せて設置に取り組む。

(2) 各種PRツールの展開

節目ウィークイベントや関係閣僚会合、三重テラス等において、各種PRツールを用いて幅広く周知を行います。また、集客力及びPR効果の高いイベントには、県民会議の出展等を通じて情報発信を行う。

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透をはかるとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国関係機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業トータルで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

単にプレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催することでプレス等との関係を構築し、より効果的な情報発信に努めます。

(1) プレスツアー、ファムトリップ等

各種プレスツアーやファムトリップ等については、地域性、テーマ性も考慮しつつ県民会議からコース等の積極的な提案を行います。

①県民会議主催プレスツアー（1泊2日）（3回程度）

②外務省等主催のプレスツアー（8回程度）

③海外メディアやエージェントのファムトリップ（複数回） など

(2) プレスツアーの参加に向けた各種行事

プレスツアーを開催するに当たり、プレス等との関係性を構築しツアーへの参加を呼び掛けるため、11月18日に外国報道機関を対象としたブリーフィングを日本外国特派員協会で開催しました。

4 県民会議主催プレスツアーの選定プロセス

次のプロセスにてプレスツアーの行程を決定していきます。

- (1) 9月に実施した市町からの聞き取りに加え、県民会議が、適宜、シート（随時、委託先と視点調整したもの、(例)視点→TPP、高齢者、子育て、環境、技術、防災、ユニークな人等）などを使って市町と情報交換したり、直接ヒアリングをしながら多くの情報を集める。
- (2) 県民会議が市町から収集した情報は委託先（フォーリンプレスセンター）に送付し、県民会議と委託先で複数のテーマを選定する。
- (3) 複数のテーマに基づき該当すると思われる取材候補のさらに詳しい情報を県民会議が市町等から収集する。

在京外国人プレスに注目されるように、関係市町と協議しながら、取材候補のより多くのアピールポイントを整理していく。

- (4) 県民会議と委託先で、取材候補を選定し、現地訪問する。
- (5) 委託先との最終調整結果を県民会議が市町と取材候補に連絡し、共有する。このときに出来る限り理由も共有し、今後のインバウンドに生かしてもらう。

5 県民会議主催第1回プレスツアー

(1) タイトル

現代に伝える忍者の文化、特色ある農業ビジネスに挑む経営者たち

(2) 実施時期

平成27年12月7日から8日まで

(3) 取材先

「モクモク手作りファーム」、「伊賀流忍者博物館」、「木の子の里」、「うれし野アグリ」「アグリ農園」

6 今後の進め方

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程について県民会議から積極的に提案を行います。また、県民会議主催プレスツアーは外務省他主催のプレスツアー受入れ状況を勘案しながら、三重県全域の発信につながるよう調整しながら実施します。

以 上

平成 27 年 11 月 20 日
事業推進課

最近のプレスツアーの概要について

1. ツアーの概要

外務省の招へいしたベルギー及びイスラエルの記者に三重県取材いただきました。

1) ベルギー記者（女性写真ジャーナリスト 1 名）の訪県

日程：2015 年 10 月 30 日（金）から 31 日（土）まで

○伊勢神宮

宇治橋や五十鈴川と神宮スギなどの風景に関心があり、写真を撮影する姿が多く見られた。また、神宮や遷宮について、細部にわたる部分まで丁寧な質問を行っていた。

○おかげ横丁

赤福本店を中心に熱心な取材活動を行っていた。本人の希望で伊勢茶を購入。また、伊勢うどんを試食いただいたが、大変おいしかったとの感想であった。

○ミキモト真珠島

真珠のできる仕組みや真珠の養殖法について多くの質問があった。また、海女の潜水作業の実演に身を乗り出しながら撮影していた。

○海女小屋（はちまんかまど）

生きた伊勢エビや鮑などが並べられた風景を、海女の姿とともに興奮しながら撮影していた。また、海女達との会話や手焼きの魚介類（特に鮑）に大変満足していた。

総括：本人によれば、大変満足のいく取材が出来たとのこと。取材内容については、まず、写真とともにブログにアップされました。今後、主にオランダ語圏の雑誌を中心に取材記事が掲載される予定です。

2) イスラエル記者（1 名）の訪県

日程：2015 年 11 月 14 日（土）から 15 日（日）まで

○答志島

海女小屋で新鮮な海産物を味わいながら、海女の生活について質問していた。漁師 2 名に最近の漁の傾向や後継者について質問していた。答志島の路地を散策しながら、独自の風習に耳を傾けたり、干物作りにチャレンジしていた。寝屋子の面倒をみているお宅を訪問し、寝屋親と寝屋子に実の親や兄弟との関係について、熱心に質問していた。

○酒蔵（河武醸造）

日本酒の製造工程について、説明を受けながら見学した。大量生産と品質を求めた伝統的な酒造りについて、熱心に質問していた。

○頭之宮四方神社

年に一度の大祭に出席し、神事、神楽等を熱心に撮影していた。神道が近代化に果たした役割について熱心に質問していた。

総括：本人によれば、大変満足のいく取材が出来たとのこと。取材内容については、facebook にアップされました。今後、1 ヶ月程度かけてイスラエル・ユダヤ圏の新聞・雑誌・ネットに取材記事が掲載される予定です。

平成 27 年 11 月 20 日
事業推進課

東京でのプレス等を対象とした事業展開について

10月27日（火）の外務省飯倉公館でのレセプションを皮切りに、東京での知事記者会見等を以下の通り開催しました。

1 日本記者クラブにおける知事記者会見（国内メディア向き）

1) 日 時

平成 27 年 11 月 11 日（水） 15 時 30 分から 16 時 50 分まで

2) 内 容

鈴木知事からの説明（約 40 分）

- ・伊勢志摩サミットの概要や開催県としての取組状況、伊勢神宮や海女など三重県の魅力について PR しました
- ・最後に知事から「今回のサミットは三重県にとって千載一遇のチャンスである。その一方、式年遷宮の経験を経て、今後は地域の総合力を上げていく必要があり、サミットをそういう契機にしたい。政府とも連携して安全に開催し、三重県でやってよかったと言われるよう全力で取り組みたい」との発言がありました。

質疑応答（約 40 分）

参加者からは、警備面での課題、観光への影響、財政負担への対応などの質疑がありました。

3) 参加人数 約 50 名

2 日本外国特派員協会における知事ブリーフィング（海外メディア向き）

1) 日 時

平成 27 年 11 月 18 日（水） 12 時から 14 時まで

2) 内 容

(1) 昼食（12 時から 12 時 30 分まで）

メニュー名「松阪牛のローストビーフ 県産野菜を添えて」（会費制）

(2) 会見（12 時 30 分から 14 時まで）

鈴木知事からの説明（約 50 分）

- ・冒頭、パリでの同時多発テロに関して哀悼の意を表する発言がありました。
- ・伊勢志摩サミットの概要説明や開催地三重県の紹介などを行いました。
- ・特に、「サミットを安全に開催することが三重県にとって最も重要な課題だ」とし、「国を含んだ官民一体のテロ対策を推進する」と述べました。

サミットを通じ三重県が発信したいメッセージは「伝統と革新の共栄する姿」だとし、伊勢神宮の精神性や県内産業の発展性などについて訴えました。

- ・最後に、三重県へのプレスツアーの紹介及び勧誘を行いました。

質疑応答（約 40 分）

参加者からは、サミットの役割や議論の中身、サミットに要する費用負担、地元住民の理解を得るための方策、伊勢神宮の宗教性と精神性などについて質疑がありました。

3) 参加人数 約 40 名（在京の外国報道関係者等）

平成 27 年 11 月 20 日
事業推進課

三重県情報館（仮称）について

1 目的

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の宝や誇り、三重県が持つ日本の素晴らしさを発信するための拠点として三重県情報館（仮称）を設置します。

■ねらい

国内外での知名度向上により、三重県へのインバウンド及び国内観光者の増加、県産品の輸出増加及び国内での需要拡大など三重の活性化につなげます。

2 事業の概要

基本コンセプトに基づき、日本の中の「地方」の代表として三重県の魅力を発信します。国との連携を密にし、国の広報と調和のとれた展開を目指します。

(1) 基本コンセプトの方向性

三重県情報館では、県の持つ「伝統と革新」を「和の精神」という切り口で捉え、「静と動」の織り成す多様な魅力を発信します。

(2) 展示コンテンツの見せ方、伝え方の方向性

効果的な構成となるよう、「できる限り本物であること」「五感に訴求すること」「奥行きあるストーリー性を持つこと」「おもてなしや人で感動できること」等に留意して効果的な演出を行います。

(3) 展示コンテンツの選定について

今後、各市町、県関係部局、企業等から展示コンテンツの募集等を行い、コンテンツ選定委員会等を経て、展示コンテンツを選定します。

3 コンテンツ選定委員会の設置について

展示コンテンツ選定にあたり、公平かつ透明性のある選定を行うため、伊勢志摩サミット三重県民会議部会運営規定第 6 条に基づくワーキングとして、事業推進部会の下に、コンテンツ選定委員会を設置します。

(1) 選定委員会の役割

- ① コンテンツ選定要領の決定
- ② 展示カテゴリの決定
- ③ 展示コンテンツの選定 等

(2) 委員の選定方法

委員の選定方針及び委員候補者については、今後検討します。

(3) 今後のスケジュール（予定）

平成 27 年 12 月 第 5 回事業推進部会

- ・ コンテンツ選定委員会の設置
- ・ 委員選定方針及び委員の人選

平成 28 年 1 月頃 第 1 回コンテンツ選定委員会

- ・ コンテンツ選定要領、展示カテゴリ

（1～2 月頃 展示コンテンツの募集）

2 月頃 第 2 回コンテンツ選定委員会

- ・ 選定要領に沿った展示コンテンツの選定

平成 27 年 11 月 20 日

事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者およびG 7 各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、記事等を通じた内外への情報発信を促進します。

2 事業の概要

(1) プロローグ版三重県情報誌の発行

伝統と革新を兼ね備えた三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を「三重県人」にフォーカスして紹介するプロローグ版三重県情報誌「CLOSE UP MIE」を発行し、飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」で各国大使館員、外国人報道機関関係者に既存のパンフレット等とファイルにセットして配布しました。

(2) 三重県情報誌の発行

三重県を愛する方々のインタビューを通じて、「伝統と革新」兼ね備えた三重県を感じてもらうための三重県情報誌を作成し、プレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布することで、三重県への理解を深めていただくとともに、国内外のメディアに取材や記事化等のツールとして活用できるようにしていきます。

(3) プレス用サミットハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催期と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。

3 今後の進め方について

- ・関係部局等と連携し、効果的な掲載内容の選定を行っていきます。
- ・プレスツアー等で情報誌を配布できるよう準備を進めます。
- ・メディアの種類や国にあわせて、ターゲットに最も効果的なプレスキットとなるように準備していきます。
- ・伊勢志摩サミット県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。

多様な主体における国際理解・国際交流事業について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供します。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざします。

2 事業の概要

(1) 国際理解・国際交流プログラム【別添①】

県民の皆様へ、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生など、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、「国際理解・国際交流プログラム」を実施しています。

(2) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援【別添②】

外務省において実施する「イチからわかる！サミット塾」では、外務省の若手職員が講師となり、サミットや外交についてわかりやすい授業を、小・中・高等学校で、各5校程度ずつ実施します。県民会議では、当事業の取りまとめなど支援を行います。

＊実施期間 平成 27 年 12 月上旬～平成 28 年 3 月下旬

(3) パネル展示等による参加国紹介

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成しました。平成 27 年 9 月 5 日の第 1 回伊勢志摩サミットフォーラム以降、イベント等で展示しています。

(4) イベントへの出展

平成 27 年 11 月 14 日～15 日、紀北町東長島スポーツ公園で開催された「第 10 回子育て応援！わくわくフェスタ」にブース出展し、伊勢志摩サミットの PR やサミット参加国の紹介を行いました。特に、子どもを対象として、子ども向けパネルの展示に加えて、サミット参加国等の国旗を利用したパズルや折鶴、手作りカウントダウンボードの作成など、楽しみながら理解を深めていただく取組を展開し、出来上がったカウントダウンボードを道の駅「紀伊長島マンボウ」に設置しました。

3 取組方針

- (1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に関心を持てるよう、全県的な取組とします。
- (2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高めます。

- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていきます。

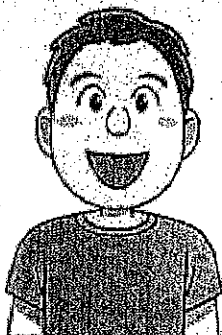
4 今後の進め方

学校や市町、民間企業・団体等と連携し、国際理解・国際交流プログラム及びイチからわかる！サミット塾の事業を推進するとともに、上記「2 (3)」の参加国紹介のパネルを行政機関や民間企業等に貸出し展示していただくことで、全県的な国際理解・国際交流につなげ、おもてなし機運の醸成につなげていきます。



伊勢志摩サミット三重県民会議

国際理解・国際交流 プログラムのご案内



平成28年5月26日(木)・27日(金)、主要国首脳会議「伊勢志摩サミット」が三重県・伊勢志摩で開催されます。

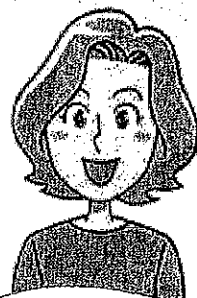
伊勢志摩サミット三重県民会議では、サミット開催を契機として、県民の皆様に、サミット参加国(※)について理解や交流を深めていただくため、「国際理解・国際交流プログラム」を実施します。

園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生など、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、プログラムを実施します。

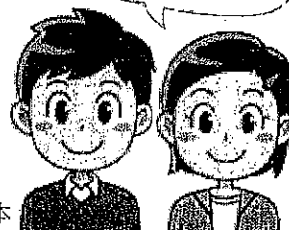
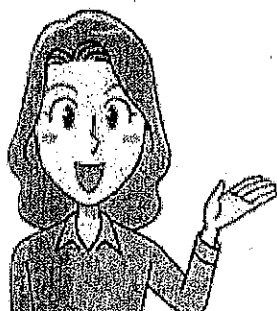
ぜひ、ご活用ください。

なお、当プログラムは、(公財)三重県国際交流財団が、伊勢志摩サミット三重県民会議から受託して実施します。

※サミット参加国…アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、日本



サミット参加国って
どんなところだろう？



プログラム

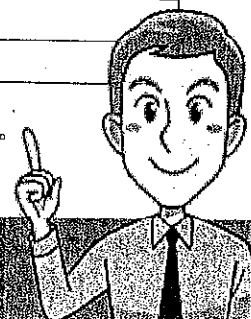
番号	プログラム	番号	プログラム
主に 園児 対象	[1] 参加国の遊びを楽しもう	主に 中学生 対象	[10] 参加国の料理を作ってみよう
	[2] 参加国の音楽を楽しもう		[11] 参加国の生活を知ろう
	[3] 参加国の言葉でお話してみよう		[12] 参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に 小学校 低学年 対象	[4] 参加国の言葉でお話してみよう	主に 高校生 対象	[13] 参加国の生活を知ろう
	[5] 参加国の生活についてのクイズに挑戦		[14] 参加国の大学への留学方法、大学生活を知ろう
	[6] 参加国の音楽を楽しもう		[15] 参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に 小学校 高学年 対象	[7] 参加国の料理を作ってみよう	主に 一般県民 対象	[16] 親子で参加国の遊びを体験してみよう
	[8] 参加国を世界地図で探そう		[17] 参加国の家庭料理を作ってみよう
	[9] 参加国のスポーツを体験してみよう		[18] 参加国の音楽を楽しもう

※プログラム詳細については、伊勢志摩サミット三重県民会議、または(公財)三重県国際交流財団のホームページをご参照ください。

なお、プログラム内容については、可能な限りご要望にあわせてアレンジしますので、(公財)三重県国際交流財団にご相談ください。

URL 伊勢志摩サミット三重県民会議 <http://www.pref.mie.lg.jp/miesummit/>

URL (公財)三重県国際交流財団 <http://www.mief.or.jp/>



実施方法

三重県内の園、学校、市町、企業、団体等からの依頼に基づき、サミット参加国出身の方あるいはサミット参加国に留学又は駐在等で滞在経験のある方を講師として派遣し、プログラムを実施します。

対象者

三重県内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、行政機関、企業、各種団体等

費用

無料

プログラムの実施や講師派遣にかかる費用は伊勢志摩サミット三重県民会議にて負担します。

実施期間及び回数

平成27年11月16日⑨

～平成28年3月16日⑩まで **全90回**

募集期間

実施を希望する期日によって、募集期間が異なりますので、下記のいずれかの募集期間にお申し込みください。

① 第一次募集 ☐ 先着順

実施期間 平成27年11月16日⑨から12月27日⑩まで

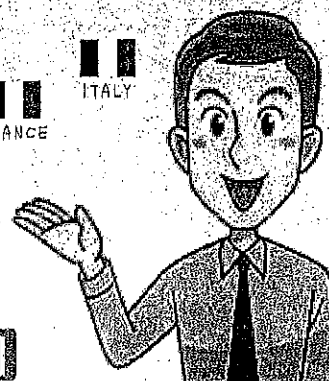
募集期間 平成27年11月13日⑤から11月30日⑨まで

② 第二次募集 ☐ 抽選あり

実施期間 平成28年 1月 4日⑨から 3月16日⑩まで

募集期間 平成27年12月 1日⑩から12月21日⑨まで

※第一次募集と第二次募集を合わせて申込が90回を超えない場合は、平成28年1月4日(月)以降、順次申込を受け付けます。
(なお、申込状況によって、第一次募集分についても一部抽選となる場合がありますので、ご了承ください。)



実施までの手順

- ① 別紙の申込書に記入の上、(公財)三重県国際交流財団(MIEF=ミエフ)宛てに、メール、FAX、または郵送でお送りください。
- ② 第一次募集については申込書受付後、また、第二次募集については募集期間終了後、全申込者様に、実施の可否についてご連絡をさせていただきます。
- ③ 実施決定後、ご担当者様、講師、MIEFによる打合せを順次行います。
- ④ 実施後、アンケートをご提出ください。

世界を
知るって
楽しいね!



お問い合わせ・お申し込み先



公益財団法人 三重県国際交流財団

〒514-0009 津市羽所町700番地アスト津3階

TEL:059-223-5006 FAX:059-223-5007 E-mail:mief@mief.or.jp

<http://www.mief.or.jp/>

公益財団法人三重県国際交流財団-MIEF

@MIEFsince1991



国際理解・国際交流プログラム一覧

- 【1】参加国の遊びを楽しむ
【2】参加国の音楽を楽しむ
【3】参加国の言葉でお話してみよう

主に園児・
対象

- 【4】参加国の言葉でお話してみよう
【5】参加国の生活についてのクイズに挑戦
【6】参加国の音楽を楽しむ

主に小学校
低学年対象

- 【7】参加国の料理を作ってみよう
【8】参加国を世界地図で探そう
【9】参加国のスポーツを体験してみよう

主に小学校
高学年対象

- 【10】参加国の料理を作ってみよう
【11】参加国の生活を知ろう
【12】参加国について調べたことを講師に発表してみよう

主に中学生
対象

- 【13】参加国の生活を知ろう
【14】参加国の大学への留学方法、大学生話を知ろう
【15】参加国について調べたことを講師に発表してみよう

主に高校生
対象

- 【16】親子で参加国の遊びを体験してみよう
【17】参加国の家庭料理を作ってみよう
【18】参加国の音楽を楽しむ

主に一般
県民対象

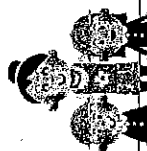
国際理解・国際交流プログラム集

- *1. それぞれのプログラムについて、サミット参加国（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ）のうち、希望する1か国について実施します。
- *2. プログラム内容については、可能な限りご要望にあわせてアレンジします。
- *3. プログラム参加者の理解をより深めるため、ぜひサミットやサミット参加国に関する事前学習を行ってください。

【主に園児対象】

【1】「参加国の遊びを楽しもう」

- (1) 対象人数 10名～30名程度
(2) プログラム



時間	内容
10分	講師の自己紹介（アイスブレイク）園児のみんなと握手！
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
10分	参加国のお話（食べ物、動物等の紹介）
20分	参加国の友だちの遊びをしてみよう！ 講師と一緒に日本伝統の遊びをしてみよう！
5分	みんなの感想を聞かせてね。

【2】「参加国の音楽を楽しもう」

- (1) 対象人数 10名～30名程度
(2) プログラム

時間	内容
10分	講師の自己紹介（アイスブレイク）園児のみんなと握手！
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
10分	参加国のお話（食べ物、動物等の紹介）
20分	参加国の音楽を楽しもう！（日本でも知られる参加国の歌を、参加国の言語で歌う）
5分	みんなの感想を聞かせてね。

【3】「参加国の言葉でお話してみよう」

- (1) 対象人数 10名～30名程度
(2) プログラム

時間	内容
10分	講師の自己紹介（アイスブレイク）園児のみんなと握手！
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
10分	参加国のお話（食べ物、動物等の紹介）
20分	参加国の言葉でお話しよう！（簡単な挨拶と感謝の言葉、数字1～10を覚える）
5分	みんなの感想を聞かせてね。

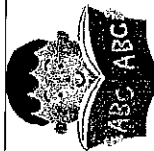
*プログラムの前の【番号】は、プログラムの番号に対応しています。

【主に小学校低学年対象】

【4】「参加国の言葉でお話してみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
10分	講師の自己紹介 (アイスブレイク) 児童と握手！
5分	サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
10分	参加国のお話(天候、国旗、食べ物、動物、子どもの遊びについて紹介)
15分	参加国の言葉でお話しよう！(簡単な挨拶と感謝の言葉、数字、目己紹介)
5分	質疑応答



【5】「参加国の生活についてのクイズに挑戦」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
10分	講師の自己紹介 (アイスブレイク) 児童と握手！
5分	サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
20分	参加国に関するクイズに挑戦！(国旗、食べ物、スポーツ、音楽、日本との関係等に関するクイズを出題・解説)
10分	質疑応答

【6】「参加国の音楽を楽しもう」

- (1) 対象人数 10名～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
10分	講師の自己紹介 (アイスブレイク) 児童と握手！
5分	サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
10分	参加国のお話(国旗、スポーツ、食べ物、動物等の紹介)
15分	参加国の音楽を楽しもう！(日本でも知られている参加国の歌を参加国の言語で歌う)
5分	質疑応答

【主に小学校高学年対象】

【7】「参加国の料理を作ってみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介 サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
20分	料理についての説明 参加国の料理を調理
10分	試食・質疑応答
10分	片づけ

※食材の準備と材料費の負担をお願いいたします。

【8】「参加国を世界地図で探そう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介 (アイスブレイク) 児童とハイタッチ！
5分	サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
20分	参加国を世界地図で探そう！ (参加国の地理、日本からの行き方、気候、産業等について紹介)
15分	質疑応答

【9】「参加国のスポーツを体験してみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介 (アイスブレイク) 児童とハイタッチ！
5分	サミットとは？(伊勢志摩サミットの説明)
10分	参加国のスポーツについて知ろう！(参加国で人気のスポーツ、そのルール等を紹介)
20分	参加国のスポーツを体験してみよう！(講師とともにスポーツを体験)
5分	児童の感想を発表

【主に中学生対象】

【10】「参加国の料理を作ってみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
20分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
15分	料理についての説明・参加国の料理を調理
10分	試食・質疑応答
10分	片づけ

※食材の準備と材料費の負担をお願いいたします。



【11】「参加国の生活を知ろう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
25分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
20分	参加国の生活を知ろう！（地理、食、物、教育制度等について説明）
20分	質疑応答



【12】「参加国について調べたことを講師に発表してみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
25分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
20分	参加国について生徒たちが事前に調べたテーマ（日本と参加国との中学生生活の比較、参加国の産業等）について発表。
20分	発表内容について講師からのコメント・意見交換
20分	質疑応答

【主に高校生対象】

【13】「参加国の生活を知ろう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介・外国語であいさつ
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
30分	参加国の生活を知ろう！（地理、食、物、教育制度、歴史、産業、環境問題等について説明）
25分	質疑応答

【14】「参加国の大学への留学方法、大学生活を知ろう」

- (1) 対象人数 10～60名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	外国語で講師の自己紹介
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
45分	参加国の大学生生活を知ろう！（大学生の生活を、パワーポイント、写真等を使って説明） どうすれば参加国に留学できる？（必要な語学力、手続き、教育機関の種類等について説明）
10分	質疑応答

【15】「参加国について調べたことを講師に発表してみよう」

- (1) 対象人数 10～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
25分	参加国について生徒が事前に調べたテーマ（移民の受入れ、少子高齢化、環境問題等）について発表。
30分	発表内容について講師からのコメント・意見交換
30分	質疑応答

【主に一般県民対象】

【16】「親子で参加国の遊びを体験してみよう」

- (1) 対象人数 10名～50名程度
(2) プログラム

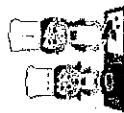
時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
20分	参加国のおはなし（食べ物、動物等の紹介）
20分	参加国の子どものおそびをしてみよう！
10分	みんなの感想を聞かせてね。

【17】「参加国の家庭料理を作ってみよう」

- (1) 対象人数 30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介 サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
15分	参加国の食文化を知ろう！（パワーポイント等を利用し、講師から説明）
60分	参加国の家庭料理を参加者と一緒に調理
25分	試食・質疑応答
15分	片づけ

※食材の準備と材料費の負担をお願いいたします。



【18】「参加国の音楽を楽しもう」

- (1) 対象人数 10名～30名程度
(2) プログラム

時 間	内 容
5分	講師の自己紹介
5分	サミットとは？（伊勢志摩サミットの説明）
20分	参加国のお話（国旗の由来、スポーツ、食べ物、動物等の紹介）
20分	参加国の音楽を楽しもう！（日本で知られている参加国の歌を参加国の言語で歌う）
10分	質疑応答

「イチからわかる！サミット塾」（小中高等学校生編） 外務省の取り組み

コンセプト

次世代を担う子ども達に、外交についての関心を高めたいだけでなく、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、三重県内の小中高等学校（対象：原則として小学校高学年以上）に若手の外務省職員を派遣し、サミットの説明もしながら、世界のことから身近なことまでわかりやすい授業をします！

「イチからわかる！サミット塾」では何をやるの？

フロンティアの概要

サミットや外交をわかりやすく説明

- 伊勢志摩サミットに来る国は？
- 「首脳」ってどんな人？
- どうしてサミットを開催するの？
- 「あなたがオバマ大統領だったら！？」
～模擬国際会議をやってみよう！～
- 世界の子どもたちの生活について考えよう。「学校に行けない子どももって世界にどれくらいいるの？」「1日120円(\$1)以下で生活する人って何人にひとり？」
- 日本は世界がよりよくなるために、何が
できるんだろう？

●講師

外務省若手職員

●時間 1時限単位

（各校の授業時間に合わせます）

※必要に応じて事前学習のための資料等も提供します。

●準備および経費

資料の用意及び講師派遣にかかる経費は外務省にて全て負担します。謝礼等も一切不要です。

平成27年11月20日
開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させ、来県者（主に報道関係者）への支援を行うなど、世界各国からの来県者をおもてなしの心でご案内できるようインフォメーションセンターを設置する。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在市町主体）

- ・JR 津駅、なぎさまち旅客ターミナル、JR 松阪駅、JR 伊勢市駅
近鉄宇治山田駅、近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：伊勢志摩サミット東海会議）

- ・中部国際空港、名古屋駅等
- ・現地への移動支援と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

- ①県民会議スタッフ、業務委託先スタッフ、外国語案内ボランティア
- ②運営主体のスタッフと県民会議派遣の外国語案内ボランティア
- ③運営主体のスタッフと県民会議スタッフ

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

- (1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。
- (2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し派遣する。
- (3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、県民会議以外のスタッフについても合同で研修を行う。また主に外国人を対象とした接遇用ハンドブックを制作し広く活用する。

4 今後のスケジュール

平成27年	9月～12月	各運営主体との設置に係る調整
平成28年	2月～3月	ボランティアスタッフ研修
平成28年	5月20日（金）～28日（土）	インフォメーション設置

平成27年11月20日
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、主に外国人報道関係者に対し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等の支援を行う。

2 取組内容

(1) 募集

外国語（主に英語）による案内業務が可能なボランティアを公募する。

(2) 研修

ボランティア参加者に対し、語学研修及び接遇研修等を実施する。

(3) 活動

インフォメーションセンターにおいて、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて外国人報道関係者を支援する。

3 取組方針

(1) 募集、研修及びコーディネート業務を企画提案コンペにより外部委託する。

【委託先】公益財団法人三重県国際交流財団

(2) 募集にあたり、県内の語学ボランティア団体等とも連携・協力を図る。

(3) 募集対象は、一般、大学生、外国人留学生及び高校生とし、募集人数は200人程度とする。

(4) ボランティア参加者の能力に応じた語学研修及び接遇研修等を実施し、能力の向上を図る。また、ボランティア参加者の応募状況に応じ、複数会場での研修を検討する。

(5) 活動場所は、原則として、設置されるインフォメーションセンターのうち県内のものとし、活動期間は、5月20日から28日の予定。

(6) ボランティア参加者が、以後、県内で開催されるMICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる仕組みづくりに取り組む。

(7) インフォメーションセンター以外での外国語ボランティア活動についても検討する。

4 今後のスケジュール

平成27年10月～12月	ボランティア募集
平成28年 2月～ 3月	ボランティア研修（語学、接遇）
4月～ 5月	ボランティア結団式
5月20日～28日	ボランティア活動
6月	ボランティア解散式

外務省飯倉公館でのセミナー及びレセプションの開催について

10月27日(火)、外務省飯倉公館で、駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス等を対象に、伊勢志摩サミットに向けたセミナー及びレセプションを開催しました。

1 伊勢志摩サミット開催記念セミナー「伝統と革新～日本のこころを三重から世界へ～」
(三重県主催、外務省協力)

16時30分から17時30分まで

出席者：約70人

・トークセッション「世界から見た三重の魅力！」

【出席者】井原慶子氏(カーレーサー／慶應義塾大学大学院特任准教授)

片山右京氏(元F1ドライバー／Team Ukyo(チーム右京)代表)

鈴木亜久里氏(元F1ドライバー／ARTA Project プロデューサー
／AUTOBACS RACING TEAM AGURI 代表・監督)

・講演及び対談「日本人の心のふるさと伊勢神宮」

【出席者】(講演)神宮禰宜／神宮司廳文化部長 河合真如氏

(対談)神宮大宮司 鷹司尚武氏

三重県知事 鈴木英敬

2 伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～(外務省及び三重県の共催)

18時から19時30分まで

出席者：約300人

・冒頭、主催者である岸田外務大臣及び鈴木三重県知事の挨拶に加え、安倍総理大臣からもビデオにてメッセージをいただきました。

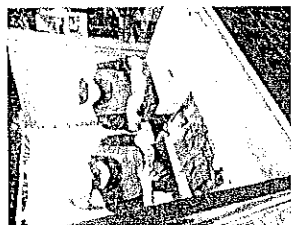
・今回のレセプションでは、三重の伝統と革新を体感できる特産品や先端技術等を紹介する様々なブースを設けるとともに、ステージでは和楽器によるオーケストラの演奏や伊勢音頭の披露等を行いました。また、提供する料理については、三重の食材等を可能な限り多く取り入れたメニューとなるよう、外務省が委託した事業者と調整を行いました。

伊勢志摩サミット開催レセプション ～三重へのいざない～

10月27日(火)、外務省飯倉公館において、三重の地に静かに息づく自然や伝統と、世界をリードし未来を動かそうとする革新の技を、【日本の原風景・心のふるさと三重】、【常に新しく、未来を生み出す三重】の2つのテーマで展開し、駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス等の方々に、サミット開催地三重の魅力・ポテンシャルを体感していただきました。

【日本の原風景・心のふるさと三重】

【常に新しく、未来を生み出す三重】



江戸時代から続く伊勢のおもてなし
赤福茶屋(試食・星茶)

エントランス

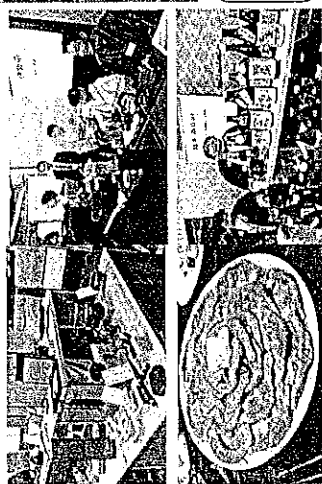
日本が誇るものづくりの技術がお出迎え
F1マシン(マクラーレンホンダ)

御食つ国のおもてなし

地酒・松阪牛・伊勢えび・熊野地鶏・南紀みかん・伊賀コシヒカリ・伊勢茶 etc

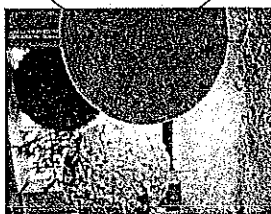
三重で育まれた自然・伝統・文化を体感

- ・真珠
- ・海女文化
- ・伊賀くみひも
- ・伊勢形紙



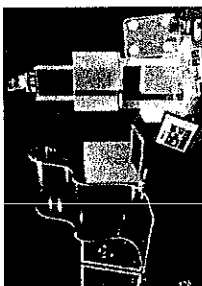
会場装飾

自然の恵み
×
人の技術
×
アート



三重が世界に誇る最先端技術を展示

- ・小型旅客機MRJ模型
- ・NAND型フラッシュメモリ
- ・超低消費電力テクノロジー使用のLSI製品
- ・有機薄膜太陽電池



三重の食 × 三重の未来を担う高校生

高校生レストラン

ステージパフォーマンス

伊勢志摩の自然・文化に触れる映像 AUN-J(AUN J-CLASSIC ORCHESTRA)による和楽器演奏



エンディング

荷物にならない伊勢みやげ「伊勢音頭」

